

幾春別川総合開発事業に関する情報発信の改善 について

—事業の透明性確保にむけて—

札幌開発建設部 幾春別川ダム建設事業所 調査設計班 ○葛西 大樹
稲垣 達弘
橋本 慎一

幾春別川ダム建設事業所では、幾春別川総合開発事業の早期効果発現を目指し、新桂沢ダム及び三笠ぼんべつダムの完成に向けて事業を進めている。当建設事業所では、ダム建設の推進と合わせて、事業の内容について、広く住民の方々に理解を深めていただくための情報発信の取組を進めてきた。さらなる事業の透明性確保の取組に加え、技術的な情報発信の取組について、報告するものである。

キーワード：広報、情報発信、透明性確保

1. はじめに

幾春別川は、国内第2位の流域面積を有する一級河川・石狩川の一次支川であり、幹川流路延長59km、流域面積332km²を有しており、流域には三笠市及び岩見沢市が所在する。

幾春別川総合開発事業は、幾春別川に昭和32年度に建設された桂沢ダムを嵩上げする「新桂沢ダム」と、幾春別川の支流である奔別川に新設する「三笠ほんべつダム」の2つのダムを建設する事業であり、新桂沢ダムで

は令和5年度に試験湛水を実施、三笠ぼんべつダムでは令和4年度より基礎掘削を開始している。

幾春別川をはじめとした石狩川下流域において、年超過確率1/100の規模の洪水（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1%)）を想定した場合に氾濫のおそれがある区域には三笠市をはじめとして札幌市、岩見沢市など8市4町1村が含まれ、約250万人が暮らしている¹⁾。幾春別川総合開発事業は、これらの地域に対して洪水による災害の発生の防止または低減を目標とする洪水調節のほか、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給、工業用水の供給、発電を目的としており

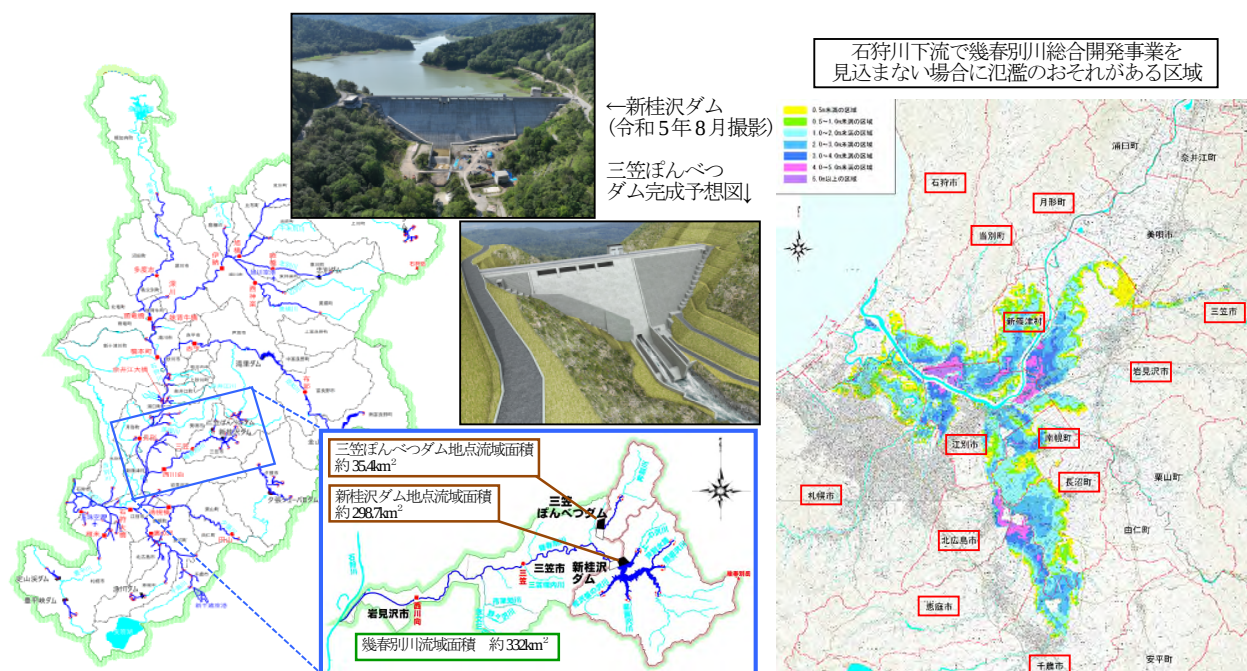


図-1 幾春別川総合開発事業の概要

令和3年8月までに4回の基本計画変更により、総事業費や工期等の変更を行い、事業効果の早期発現を目指して事業を進めているところである。

事業を最前線で進めている幾春別川ダム建設事業所（以下、事業所とする）では、以前よりWebサイトでの情報発信や、地域イベント等との連携による現場見学を通して事業の広報に取り組んできた。本論文は、令和3年度の広報活動の取組を踏まえた、令和4、5年度の取組の結果についてまとめたものである。

2. これまでの広報と課題

(1) これまでの取組事例

令和3年度の後藤らの取組²⁾により、広報の改善とそれに対する成果及び課題点が挙げられている。ここではこの取組に関して簡単に紹介する。

a) 見学会・意見交換会やジオツアーの開催

一般の方への事業内容の発信や、質疑応答の場として見学会・意見交換会を開催した。新桂沢ダムと三笠ぼんべつダムの見学会の後、意見交換会を開催し、参加者と職員が質疑応答を行うものである。

また、三笠市は「日本ジオパーク」に認定されており、三笠のさまざまな地域資源「地域のお宝」を紹介し、三笠の魅力を伝える「ジオツアー」を開催している³⁾。令和3年度に、新桂沢ダムをテーマとしたジオツアーは年2回開催されている。原石山やダム建設現場、ダム堤体内部などの見学が組み込まれたツアーとなっており、好評を得ている。

b) Webサイトの整理とバーチャル現場見学の新設

事業所では、Webサイトの改善のため、大きく「バーチャル現場見学」「資料の充実と体系の整理」「イベント開催情報の発信」「お問い合わせ先メールアドレスの開設」の4つのポイントでWebサイトの見直しを行った。

「バーチャル現場見学」について、新桂沢ダムに訪れることが出来ない方等に向け、令和3年10月に事業所Webサイト内に「バーチャル現場見学」のページを開設した。これは、撮影した360度画像をPCやスマートフォンのWebブラウザ上で自由に回転させて閲覧できるものである。

「資料の充実と体系の整理」について、事業所のWebサイトは、ダム建設事業にかかわる基礎資料を掲載していたが、記事が箇条書き形式に列挙された構成となっており利用されにくい面があった。そこで、見出し等を設けることにより、項目毎に見やすくなるような体系の整理を行った。さらに、事業の基本計画の本文や各種委員会資料、工事状況などを事業所のWebサイト内に掲載またはリンクするなど事業に関する資料を充実させた。

「イベント開催情報の発信」では、事業所Webサイトの「広報」ページにおいてダムの工事現場等における視

察や見学会・意見交換会等の開催状況を発信した。また、札幌開発建設部として運営しているSNSにおいて、適時、事業に関する情報を発信している。

「お問い合わせ用メールアドレスの開設」では、“対話型”の情報発信を目指すための新たな問合せツールとして、メールアドレスを開設し、事業所Webサイトにおいて公開した。いただいたご意見については事業の参考にさせていただくほか、ご質問については別途掲載している「ご質問と回答」に掲載した。

(2) これまでの広報に関する評価と課題

令和3年度の見学会・意見交換会では、アンケートより、参加者全体の90%以上の方に『見学会・意見交換会の内容に満足した』『参加を通じて事業への理解が深まった』等の回答をいただけたことから、一定の成果があったと考えられた。

一方で、アンケートの自由記述欄には『もっと現地で時間をとれば良かった』『周囲にも参加したかった人がいたので、回数や人数が増えるとよい』の様に、見学時間や回数の不足を指摘する意見があった。また、参加者の募集を月曜日の12:00に募集を開始して、1時間程度で募集定員に達したことや、参加者のうち20代の割合が、4%程度にとどまっていることから、仕事の都合で応募できない方等もいたことが考えられる。このことから、より参加しやすい環境づくりが必要と考えられる。

Webサイトの改善に関しては、Webサイトのリニューアルを行った結果、サイトへのアクセス数が上昇したことから、Webサイトの見直しについて、効果があったことが確認された。引き続き、ダム事業への理解を深めていただくため、ダム事業に興味の無い方等へも情報発信を進める必要がある。

(3) 現状の課題に対する令和4年度以降の対応の方向性

令和3年度における課題と、それに対する令和4年度以降の対応案を表-1に示す。令和3年度の課題を「意見交

表-1 事業所の情報発信に関する
令和3年度の課題と令和4、5年度の対応案

令和3年度の課題		令和4、5年度の対応案
意見交換会の改善	見学時間の不足	・ 見学時間の増加
	見学会の実施回数の不足	・ 見学会実施回数の増加
	参加しやすい環境づくり	・ SNSやかわたびほっかいどうのWebサイトでの情報提供 ・ 家族連れの参加しやすい夏休みの時期での開催 ・ 応募方法の改善
幅広い人を対象とした情報の発信	ダムへの関心が無い人への情報発信方法	・ 他の観光と連携しダム見学出来るジオツアーの取組
		・ 試験湛水状況の発信と洪水時最高水位到達時の一般見学の実施
		・ 猛禽類研究会での取組の発信

換会の改善」、「幅広い人を対象とした情報の発信」に分類し、対応案を整理した。以降ではその取組について紹介する。

3. 意見交換会の改善

本章では、表-1で課題としてあげた、意見交換会の改善に対する対応と結果について述べる。

(1) 見学会・意見交換会の開催回数と、見学時間の増加

令和3年度好評であった見学会・意見交換会は、令和5年度現在も継続して毎年開催している。内容は令和3年度と同様に、見学会にて新桂沢ダム及び三笠ぼんべつダムを見学し、その後、事業所にて意見交換会を行うという形を取った（図-2）。令和4年度以降は開催時期を小学校の夏休み期間を含む日程にすることで、家族連れ等の参加しやすい時期とした。詳細は、令和3年度の見学会・意見交換会は10月の1回開催に対して、令和4年度は7月と10月の2回開催とし、参加の機会を増加させた。各年の参加人数は、令和3年度に26人、令和4年度は2度の開催を合わせて56人となった。令和5年度に関しては、同年11月より試験湛水を実施するため、7月の1回開催としているが、1回の募集人数を30人から40人へ増加し開催している。

また、現地での見学時間を表-2に示す様に、令和3年度から令和5年度にかけて増加させている。令和3年度の見学時間は57分であったが令和5年は78分とし、19分増加した。

(2) 応募方法の改善

令和3年度の見学会・意見交換会を踏まえ、令和4年度以降は、事前の応募プロセスの改良を図った。令和4年度以降の見学会・意見交換会では、募集方式を先着方式から抽選方式とし、土日を跨いで1週間程度の募集期間を設け、参加しやすい方法をとった。



図-2 意見交換会の様子

(3) 募集情報の発信強化

令和3年度の見学会・意見交換会の募集の際には、札幌開発建設部の記者発表、事業所と地元自治体Webサイトでの募集であったが、令和4年度以降は、情報発信の媒体を増加させるため、令和3年度の情報発信に加え、かわたびほっかいどう（北海道の「水辺」の魅力を発信する北海道開発局のプロジェクト）のWebサイトと、SNSにおいて開催情報の掲載を依頼した。

(4) 令和4年度と令和5年度の取組の結果及び考察

令和3年度から令和5年度の参加者数及び見学時間の推移を表-2に記す。見学時間が増加するにつれて、アンケートの回答にて見学時間が不足していると記載した参加者が減少しており、見学時間の課題に関しては改善することができたと考えられる。また、見学回数は今後も年2回開催を継続し、参加者の意向を確認することとする。

また、図-3のように、令和4年7月の見学会・意見交換会は全体の参加者に対する20代の割合が13%となった。さらに、図-4のように令和4年度の見学会・意見交換会では、道外の参加者も確認できた。

(5) 新たな課題と今後の対策

令和4年度、令和5年度の見学会・意見交換会での応募方法や見学時間等の対応は、その結果から一定の効果が得られたと考えられる。一方で、図-4に示すように地元である三笠市からの参加者が減少していることが課題として挙げられる。中でも、令和4年10月、令和5年7月の三笠市からの参加者はそれぞれ0人、1人となっており著しく低い値となった。新桂沢ダムと三笠ぼんべつダムの建設地の地元から理解を得ることは、ダム事業を進めていく上で必要不可欠であると考えられる。対策としては、後述する洪水時最高水位到達時の一般見学に大きく効果があつた、三笠市「愛の鐘」放送による三笠市内での放送で見学会・意見交換会開催の情報提供を行うことや、地元商業施設や市役所等の住民にとってより身近な場で、ポスター掲示等の広報を行うことが有効な方法であると考えられる。

また、令和5年度のアンケートでは「三笠ぼんべつダムの必要性が感じられなかった」といった意見もいただ

表-2 令和3年度から令和5年度にかけての参加者数及び見学時間の推移

意見交換会	見 学 時 間 (分)	参 加 者 数 (人)	時間の不足を記載した参加者の割合 (%)
令和3年度10月	57	28	18.5
令和4年度7月	64	29	13.8
令和4年度10月	69	27	3.7
令和5年度7月	78	39	0.0

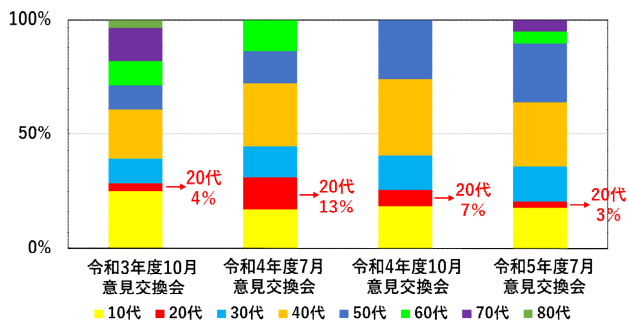


図-3 意見交換会の参加者世代分布

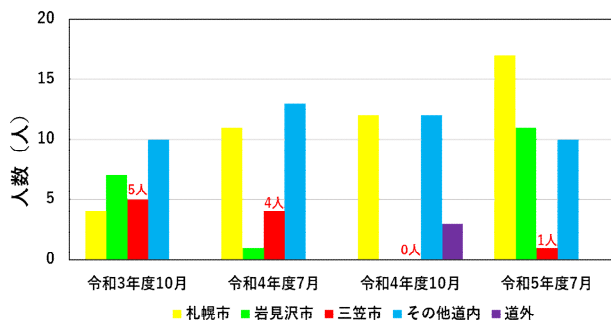


図-4 意見交換会参加者の居住地分布

いた。これは三笠ぼんべつダムでの説明時、堤体材料となるCSGや、工事实施のための転流工、現在行われている基礎掘削といった、本格化した工事説明に重点を置いたため、三笠ぼんべつダムの目的である洪水調節機能の説明を十分に行えなかったことが、要因であることが考えられる。これを踏まえ、見学時間内と見学を行った後の意見交換会の時間内での、三笠ぼんべつダムの目的に関する説明の時間配分を増加させることが必要であると考えられる。

4. 幅広い人を対象とした情報の発信

本章では、表-1で課題として挙げられた、幅広い人を対象とした情報の発信に対する対応と結果を述べる。

(1) ジオツアーでの新たな取組

ジオツアーへの参加者は図-5に示すように増加傾向となっており、近年は約4,000人の入込数を確認していることから、三笠市の自然や歴史への関心が高まっている。ジオツアーでは例年、新桂沢ダムからの放流を利用した幾春別川でのラフティングツアーが開催されているが、令和4年度、新規のツアーとしてサイクリングツアーと「冬の桂沢満喫ツアー～湖面散策とダム見学を楽しもう!～」というツアーが開催された。サイクリングツアーは、三笠市立博物館の野外博物館の地層、炭鉱、化石などをサイクリングしながら見学した後、新桂沢ダムを見学できるコースである。新桂沢ダムでは、ダムの堤体

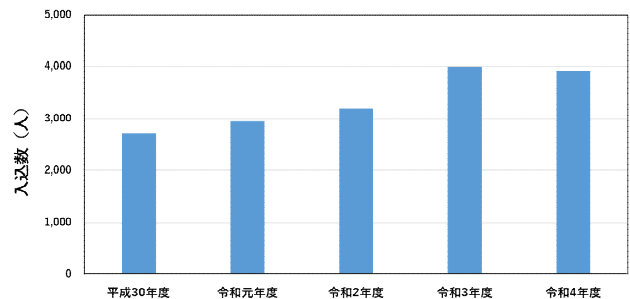


図-5 令和3年度から令和5年度にかけてのジオツアーの年度別入込数

MIKASA GEOPARK WINTER TOUR 2023
2.11 (SAT) 10:00 START

湖面散策とダム見学を楽しもう!
 冬の桂沢満喫ツアー

時間 10:00～12:30 (定員 15名)
料金 おひとり様 2,700円
 ※対象は小学生以上、ライフジャケットを着用できる方。
 (身長 140cm以上、体重 40kg以上、体重 100kg未満)
 ※中学生以下の参加は保護者同伴となります。
 ※スノーシュー体験の料金は 500円(税込)となります。
集合 桂沢湖わかさぎ釣り場(旧桂沢公園)

申込 三笠ジオパーク推進協議会
 01267-2-3997 (平日のみ 8:30～17:00)

行程 ① 桂沢湖わかさぎ釣り場(スノーシュー)
 → ② 桂沢湖の湖面散策(スノーシュー)
 → ③ 湖面休憩
 (2 Beans Coffee の軽食&飲み物)
 → ④ 新桂沢ダム 見学(管理室・堤体散策)
 ※天候により行程が変更となる場合や中止となる場合がございます。

主催 三笠ジオパーク
協力 かたがひ ぽんぽく

図-6 冬の桂沢満喫ツアー～湖面散策とダム見学を楽しもう!～ 実施のチラシ

や湖面を眺めることができるほか、堤体上をサイクリングし、管理棟などのダムの施設を見学できる。湖面散策ツアーに関しては、スノーシューを履いて、結氷した桂沢湖の湖面上を散策した後、新桂沢ダムの天端へ移動し、ダムの説明を聞くことができる。参加者は16名参加し、満員となった。新桂沢ダムの図-6に開催時のチラシを示す。

このような新桂沢ダムの見学を含むジオツアーの増加が、普段ダムに関して興味のない方でも、三笠市の地理的な歴史を学ぶことや、ラフティングやサイクリング、湖面散策を通して副次的にダムに興味を持てただけにすることにつながったと考えられる。

(2) 試験湛水情報の発信

幾春別川ダム建設事業所では令和5年11月より、試験湛水を実施している。試験湛水とはダム本運用前に、貯水位を上昇、降下させ、ダム堤体、基礎地盤及び貯水池周辺地山等の安全性を検証するための試験である。事業所ではこの試験湛水について、貯水位の上昇、降下にもなう流域住民への情報提供が必要となる事に加え、一般の方々にダム事業に関して知っていただく良い機会であると考え、幾春別川ダム建設事業所のWebサイトにおける試験湛水状況の専用ページの開設と、洪水時最高水位に到達した新桂沢ダムの一般見学を行った。その際、ダムに興味の無い方でも関心を持っていただけるような情報提供を心がけた。

a) Webサイトでの試験湛水状況の更新

試験湛水情報の発信にあたって幾春別川ダム建設事業所のWebサイト上に試験湛水状況のページを新たに設けた。試験湛水中の貯水位や洪水時最高水位までの高さ、水位上昇高などの諸元をWebサイトに掲載した。また、現在の貯水状況のポンチ絵や貯水池の写真を加えることで、視覚的に貯水池の状況がイメージがしやすいような工夫をした。更新は毎週1回とし、洪水時最高水位に到達した12月15日の1週間前から毎日更新とし、詳細な情報提供を行った。また、SNSにてWebサイトに新たなページを設けたことを投稿し、幅広い方にも関心を持っていただけるようにした。

b) 一般見学の実施

洪水時最高水位に到達した状態を見学していただけるよう新桂沢ダム下流広場の一般見学を行った。図-7に一般見学の様子を示す。洪水時最高水位となった12月15日から12月17日までの3日間で一般見学を開催した。見学場所には職員を配置し、ダム事業に関してパネルを使用し説明するとともに、ダムカード枠を使用して、ダムカードを模した写真撮影を可能とした。12月11日に札幌開発建設部の記者発表やSNSによって、一般見学の開催情報を発信し、12月12日にはかわたびほっかいどうのWebサイトでも開催概要の発信を行った。さらに三笠市「愛の鐘」放送により、一般見学を開催する旨の市内放送を



図-7 一般見学の様子

した。また、事業所にて配布を行っている、ダムの概要について記載されているダムカードに加えて、この期間から新桂沢ダム（試験湛水中更新版）のダムカードの配布を始めた。それに加え、事業概要を補足するために製作したリーフレットを配布した。見学期間後には、非常用洪水吐からの越流の様子を撮影した動画を、前述した試験湛水状況のWebサイトや、SNSにて情報の発信を行った。

c) 試験湛水状況の発信の結果と考察

令和3年4月から令和5年11月までの幾春別川ダム建設事業所Webサイトへの総アクセス数（各ページの閲覧数の総計）を図-8に示す。試験湛水状況の投稿を開始した11月には過去最高となる1万件以上のアクセス数を記録し、Webサイトでの試験湛水状況ページの新設、SNSへの投稿により、多くの方に情報発信を行うことができたことが確認された。さらに、令和5年11月に新設した試験湛水状況のページへのアクセス数が1,330件となり、10月と11月の幾春別川ダム建設事業所Webサイトへの総アクセス数を比較するとアクセス数が2,233件上昇していることから、試験湛水状況のページを閲覧した方が他のページも閲覧することによってアクセス数が上昇していることが示唆され、試験湛水の情報発信をきっかけとし、ダム事業についても興味を持って頂くことができたと考えられる。

期間中3日間での参加者数は延べ617名となり、地元の三笠市の方と、全国のダム愛好家等に参加頂いた。さらに、一般見学期間に休日が含まれたため、家族連れの方々も参加する結果となった。参加者からは「ダムからの越流が素晴らしかった。」や「事前にWebサイトでの情報があつたため参加することができた。」といった意見をいただいた。また、ダムカード受け取りの際には、「ダムに関してはあまり詳しく無かったが、三笠市内の放送によって開催を知り、参加した。」という参加者も多数見受けられ、多くの方にダム事業について関心を持って頂くことができた。更にSNSでは新桂沢ダムの越流動画や写真などの投稿が多く見受けられ、事業所が発信した投稿だけで無く、参加者の投稿を見てダムに対して無関心だった人がダムに興味を持つきっかけとなることが期待できる。

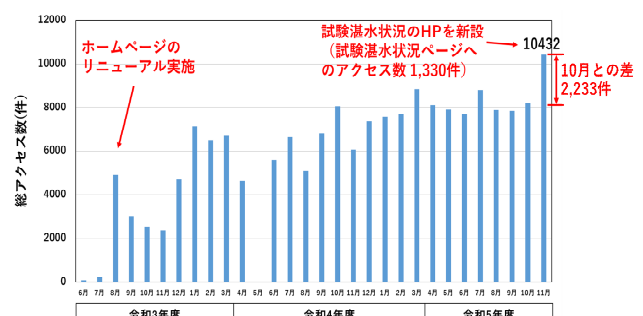


図-8 令和3年度6月から令和5年度12月までの事業所Webサイトへのアクセス数推移

表-3 令和4、5年度の情報発信に関する取組と成果

令和3年度の課題	対応	対応による結果	今後の対応
意見交換会の改善	見学時間の不足	・見学時間の増加	新たに寄せられた意見 ・アンケートにて事業概要の説明が不十分であることを指摘されたため、説明時間を増加させる 地元参加者が増加するような取組の検討 ・三笠市内放送 ・商業施設へのポスターの掲示
	見学会の実施回数の不足	・見学会実施回数の増加	
	参加しやすい環境づくり	・SNSやかわたびほっかいどうのWebサイトでの情報発信 ・家族連れの参加しやすい夏休みの時期での開催 ・応募方法の改善	
幅広い人を対象とした情報の発信	ダムへの関心が無い人への情報発信方法	・他の観光と連携しダム見学出来るジオツアーの受け入れ	・ジオツアーへの参加者が増加 ・アクセス数の上昇と見学者数よりダム事業の発信ができた ・好評の声が寄せられた
		・試験湛水状況の発信と洪水時最高水位到達時の一般見学の実施	
		・猛禽類研究会での取組の発信	

(3) 猛禽類研究会でのダム事業の取組の発信

新桂沢ダムでは専門家の指導、助言を得ながら環境保全措置を実施している。

令和5年11月10日、令和5年度第23回猛禽類研究会において、環境保全対象種であるクマタカの保全対策を進める取組⁴⁾の報告を行い、ダム技術の情報発信を行った。

また、取組内容の概要を幾春別川ダム建設事業所ホームページに掲載している。このように、ダム事業に関する技術を発信して行くことも、ダム事業の透明化の取組として有効な手段の一つであると考えられる。

5. まとめ 今後の事業広報・情報発信について

幾春別川ダム建設事業所の令和4年度と令和5年度における、情報発信の改善の取組状況を表-3に示す。見学会・意見交換会の改善という課題に対しては、見学時間と実施回数を増加させることに加え、開催情報の発信媒体を増やした。幅広い人を対象とした情報の発信という課題に対しては、新規ジオツアーとの連携と、試験湛水状況やダム技術の発信を行った。その結果、見学会・意見交換会での好評の声や洪水時最高水位到達時の一般見学で多くの方が来場し、2章にて提示した課題及び方向性に対して一定の成果を出すことができた。一方で、見学会・意見交換会において、事業の目的の説明が不十分であったこと等の新たな課題点も確認された。

今後、幾春別川総合開発事業は新桂沢ダムの完成に伴い節目を迎える。その中で、国直轄のダム事業では初の同軸嵩上ダムである新桂沢ダムならではの情報発信が必要と考えられる。具体的には、現在まで工事や周辺状況の画像を定期的にWebサイト上に掲載していたが、新桂沢ダム完成後は、完成までの流れを工程毎に確認できる様にする等の工夫が考えられる。今後も多くの方にダム事業への理解を深めていただくため、引き続き情報発信の強化に努めて行きたい。

6. 終わりに

令和5年度は、三笠ぼんべつダムの工事の本格化や、新桂沢ダムでの試験湛水の開始により、一般の方にダム事業を発信する機会が増加した年となった。これに伴い、各イベントで一般の方の意見や要望なども多く聞くことができた。来年度以降は今年得られた意見などを一般の方に還元し、ダム事業の発信を行っていきたい。

今後も幾春別川ダム建設事業所では、早期のダムの効果の発現に向けてダムの建設事業を進めてゆく所存であるが、その中での情報発信の取組についても、改善に向けた不断の検討と努力を続けていきたい。

謝辞：見学会・意見交換会や、試験湛水の一般見学の開催に際しては情報の掲載などにご協力いただきました関係市町村のみなさま、また事業に参画いただいている各利水者並びに北海道の皆様、イベント開催にあたり現場の準備等ご尽力いただいた施工業者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 令和3年度北海道開発局事業審議委員会（第2回）再評価原案準備説明資料～幾春別川総合開発事業
- 2) 後藤 治樹、西本 学、三本木 公士：幾春別川総合開発事業に関する情報発信の強化に向けて―基本計画変更を経た事業のこれからの広報について―、第65回(2021年度)北海道開発技術研究発表会発表論文
- 3) 三笠ジオパーク 公式Webサイト
<https://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark>
- 4) 坂本 航一、平沼 敦、齋藤 敦子：希少猛禽類の保全とダム事業推進の両立を目指した取組について―クマタカの育雛に配慮した工事実施の対応事例―、第66回(2022年度)北海道開発技術研究発表会発表論文